

cardiogram をヒトにおいて同時に行ない、百分率で標準偏差±15%の差をもって両者が一致することを見出した。さきに発表した成績の他にインドシアニングリン色素の全血中濃度測定が 10mg/L 迄は直線性をもって実測できることを述べ、更に radiocardiogram の下行脚と再循環の山とが弁別困難な場合には、心送血量算定が不正確な事実を例示した。

追加：久田欣一(金沢大学 核医学科) シンチカメラに入るデーターをダイレクトストアし、再生時心ブールの形を見て、適当な位置からの情報をカーブに描くようにすると、RCG はもっと信頼できるものとなることが考えられる。

*

16. $^{99m}\text{Tc-S-Colloid}$ の製法について

○中沢信彦 黒崎浩己 小川 弘
(第一ラジオアイソトープ研究所)

1964年, Harper らにより $^{99m}\text{Tc-S-colloid}$ は, liver, spleen, bone marrow の scanning に使用できることが報告されたり, その製法については種々検討されている。今回私達は, より簡便にして安全な $^{99m}\text{Tc-S-colloid}$ の製法についての検討を試みた。

$\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3, \text{KH}_2\text{PO}_4, \text{EDTA}$ の混合溶液に $^{99m}\text{Tc-saline}$ (無菌) を加え, HCl で酸性にし, $95^\circ \pm 2$ で10分間加熱後 NaOH で中和した。安定剤として, Mannitol 溶液を加えて $^{99m}\text{Tc-S-colloid}$ 溶液とした。

この $^{99m}\text{Tc-S-colloid}$ 溶液は $^{99m}\text{Tc-}$ 95%以上 (paper

*

*

*

*

*

*

*

*

*

chromatography) が S-colloid に吸着されており, また rat に静注後, 15分より5時間までの主な臓器における 1g 当りの activity は, liver では spleen を除く他の臓器より, 10倍以上の activity が認められ, spleen では liver の $\frac{1}{2}$ 程度の activity が認められた。

*

17. 腫瘍親和性高純度標識

フィブリノーゲンに関する研究

加藤貞武 倉田邦夫 分林孝夫 五百川武弘
(ダイナボット・RI 研究所)

フィブリノーゲンが腫瘍組織によく集積することが報告されてから, 多くの研究者によって ^{131}I 標識フィブリノーゲンを癌診断薬として用いようとする試みが検討されてきたが, まだルーチンの使用の域に達していない。われわれは, 腫瘍親和性の高い ^{131}I 標識フィブリノーゲンをうる目的で種々検討した結果,

- ① フィブリノーゲンの精製法および純度
- ② 標識法
- ③ 凍結乾燥法

に影響されることを確認した。今回はとくに標識法について検討した結果を報告する。

えられた ^{131}I 標識フィブリノーゲンの腫瘍集積率は, 静脈注射後 48 時間で正常筋肉組織に対してサルコマー 180で50倍, 吉田肉腫で200倍と高い腫瘍親和性を示した。

*